

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890500083		
法人名	医療法人 厚生会		
事業所名	グループホームさくら日和 さくら		
所在地	大野市中津川32-33		
自己評価作成日	令和5年10月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和 5年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲には大野の山々や田畑が広がり、季節の移り変わりを感じる事が出来ます。2ユニットの共有スペースには天窓から日光が差し込む明るくあたたかな空間があり、通気性も良く感染対策にも優れた造りになっています。同敷地内にあるデイサービスや訪問看護ステーションの訓練士や看護師との連携を図り、日々変化する利用者様の対応や生活上のアドバイスをいただいています。今後はコロナウイルスなどの感染症の状況をみながら、今まで制限されていた行事や外出等の企画を検討していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の裏手には田園が広がり、四季の移り変わりを感じることができる開放的な建物となっている。敷地内には、同法人が運営するデイサービスセンターや訪問看護ステーションが隣接しており、市内の医療機関と連携を取っている。コロナ渦の影響で、地域に密着した事業所を目指した活動が思うようにできなかったが、ようやく規制も緩和され、外部との交流を再開しようとしている。家族との外出や、少人数での近場へのドライブ等や、趣味を活かした日中の活動などにより季節感を感じることができる利用者の作品も数多く飾られている。地域のイベントにも作品を展示し、鑑賞にも出かけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関に掲げ、それを実現するために職員一人一人が意識して業務にあたっている。月1回のミーティングの際には日々のケアを振り返り、利用者様の望む暮らしを提供できるよう、話し合い理解を深めている。	理念は、玄関に掲げられており、職員一人ひとりが常にこの事を意識して支援している。	事業所が目指す理念を実現するために、個人目標には、理念を共有して実践に繋がる工夫を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方のご厚意で、畑でのジャガイモやサツマイモの収穫体験をさせていただいている。	公民館まつりへの作品展示や参加、地域住民の畑での収穫体験などの交流も行われ、少しずつ地域の一員として活動できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で現在は中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し意見交換・情報交換を行っている。コロナの感染状況をみて書面での報告とさせて頂くこともある。	2か月に1回、区長・民生委員・家族代表・市職員等を招き、開催している。区長からは、災害時の受け入れについて提案があるなど、地域の要として頼られている。	事業所の運営に理解と協力を求めるためにも、議事録は全家族に送付することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	普段から大野市健康長寿化との連絡を取りあい、分からない事を気軽に聞いたり相談をしている。	日頃から、市職員とは連携を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルに沿って、職員研修を行っている。スピーチロックなど介護現場では意図なく起こりやすい拘束行為がある事を理解し、職員同士がお互いに注意しあえる関係づくりにも取り組んでいる。	身体拘束防止マニュアルを作成し、職員研修も行っている。利用者への言葉かけや、行動抑制等を職員間でお互いに注意しあえる関係づくりに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内に虐待防止検討委員会を立ち上げ、年1回及び必要な都度会議を行っている。研修も定期的に参加し、職員同士がお互いに注意しあえる関係づくりにも注目している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在日常生活自立支援事業を利用されている方が1名入居しておられる。研修への参加も今後検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、理解・納得を得てから契約書にサインをいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の要望については、面会時や各種連絡時、コロナ禍においては電話にて直接話し合いを設け、確認をしている。運営推進会議の議事録を家族に郵送し、情報提供を行っている。	受診時や、面会時に、家族から意見を直接聞いたり、電話でも要望がないかを確認している。コロナ禍の対策として、面会室は個別に場所を設置して、何時でも利用出来る体制がとられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議、朝・夕の申し送り、カンファレンスなどで意見交換を行い、運営に反映させている。	月1回の職員会議に職員の意見を聞く機会を設けて、半期に1回は個人面談を行うなどし、職員の意見や提案を運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を通して、自己評価・管理者評価を行い、個人面談にて意向を確認している。日々の業務中にも適宜意見や提案を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修目的シートを作り、各個人が自己管理している。院外研修への参加も促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での地域密着型施設会議を2カ月に1回行い、情報交換を行っている。市内の他事業所との連絡も取り合い、報告・相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際にはご本人・ご家族の要望をお聞きしている。入居後しばらくは不安感が強いことが心配される為、慎重に様子を伺う。自宅のようにリラックスできるよう、なじみの物を持参していただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族の思いをお聞きしている。また入居後のご本人の生活の様子をお伝えし、安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネが本人・家族に聞き取りし、アセスメントしたうえで、必要な支援を見極めてプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じて日常生活においてやりがいを持ってできる活動を探り、一緒に協力して掃除・洗濯・食事の準備などを行う。頼りになる存在であり、感謝していることを本人に伝え、意欲につながるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診介助は基本ご家族にお願いをしている。家族が受診に付き添えない場合は受診の結果をその都度電話にて報告している。その他状態変化時にもこまめに連絡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが5類感染症となったことから、面会や外出・外泊を再開し、増えてきている。遠方の家族や友人からの電話でのやり取りは継続して行っている。	コロナ渦も落ち着いて、家族の面会や外出も徐々に増えている。遠方の家族や友人からの電話での交流が継続されるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や行事・外出・手作業などそれぞれの興味に合わせて活動を選んでいただけるように企画している。活動を通して他者との関わりを楽しんでおられる。時折トラブルになる事もあるが、その都度職員が仲介に入っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の相談や問い合わせにも丁寧に対応している。次の施設や担当ケアマネとの連携も図っていくようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを聞き取る機会を生活の中で定期的に持ち、自分らしい生活を送って頂けるよう支援している。意思表示の出来ない方にはこれまでの生活歴や性格をご家族から聞き取ったり、表情などから思いをくみ取るように努めている。	月1回の職員会議では、支援内容が職員目線ではなく本人の意向に添えるように、定期的に話し合っている。難聴の利用者には、筆談での対応により、本人の意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や前任のケアマネ・利用していたサービス事業所などから情報収集している。職員間で情報を共有し、統一した対応が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日のスケジュールに沿って声掛け・対応をしているが、本人のペースに合わせていけるように、本人と相談したり表情・言動を見ながら対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の希望や適宜アセスメントを行い、その時その時の本人の課題を見極め、介護計画を作成している。毎月のモニタリング・3か月に1回の評価をもとにプランの見直しを行っている。	本人・家族の意向を定期的に確認して、介護計画を作成し、毎月のモニタリング、3か月ごと評価に沿ってプランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケアプランに沿って記録に残している。各種会議・ミーティング・申し送り等を通してケアの見直しを行ったり、職員間で共有できるように各自が申し送りシートやノートの確認をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の意向をくみ取り、その都度ケアの見直しを行っている。職員間で相談し、斬新なアイデアも受け入れられるよう柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の介護タクシー事業者との提携を図り、利用者の定期受診や外出等を行っている。コロナの感染状況をみて地域のボランティアの慰問等も検討していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の日常の様子を文書にて情報提供し、家族が安心して受診介助に付き添えるようにしている。家族が付き添えない場合は介護タクシーを利用させていただいており、現在利用者の半数以上が介護タクシーを常時利用している。受診結果を毎回家族に報告している。	利用者・家族が望むかかりつけ医での受診が継続されている。受診介助は家族が担い、家族の都合がつかない時は介護タクシーを利用している。緊急時は、職員が同行して家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内のデイサービスより、週2回2時間の訪問があり、日々の相談や処置、体操、レクなどもして頂いている。また、24時間対応可能な訪問看護師とも連携を持っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供シートを使用し、病院との連携を図っている。入院中も家族や病院との連絡を取り合い状況把握に努めている。退院時はカンファレンスに参加し必要な確認事項を職員全員が把握できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には当施設が出来る事と出来ないことを説明し、家族の方針をお聞きしている。重度化が著しい利用者には早い段階から今後の意向について家族と相談する機会を設けている。他施設移行を希望される方には、スムーズに意向が完了出来るよう支援を行っている。	契約時に重度化、終末期における事業所の対応策を家族に説明している。特別養護老人ホーム・病院への移行についても、早い段階で、家族と相談の機会を設けている。特浴の設備がなく、入浴支援が困難になった段階で移行を検討している。	職員間で、重度化、終末期の支援方法を十分に話し合い、マニュアル化を進める事を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回の救急対応研修への参加を促し、マニュアルに沿って手順の確認を行っている。急変や事故発生時に備え、連絡先・搬送先の確認をしたり、普段からかかりつけ医との連携を持っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時BCPを作成した。今後職員全員がBCPの確認・把握を行い、マニュアルに沿って訓練を実施していく予定。その他に年2回消防署の指導のもと、避難訓練を行っている。	消防署の指導のもと、年2回の避難訓練を行っている。災害時BCPを作成し、全職員がマニュアルに沿って訓練が出来るような体制作りを目指している。非常用の物資の備蓄もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性を尊重し、言葉かけには特に注意している。接遇研修に参加し、職員間で注意しあえる環境づくりにも配慮している。	一人ひとりの個性を尊重し、言葉かけや対応等が馴れ合いの関係にならないように、職員間で注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から思いや希望を気軽に話せるようにコミュニケーションをとり、信頼関係を築けるよう努めている。自己決定を促せるよう時間をかけてわかりやすく説明をしたり、同意を得るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースや心身の状態に合わせて、本人の望む生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	夜は寝間着に、朝は普段着に着替え、一日の中でメリハリをつけて過ごしていただいている。お気に入りの洋服を自分で選んだり、髪をセットしたりおしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食品業者から毎食分パOUCH商品として購入している。食事の準備はパックのまま湯煎にて温め、食器に盛り付けて提供している。準備の際は利用者と一緒に料理に合った皿を選んだり、彩やバランスを考えて盛り付けている。洗い物や食器の片付けも一緒に行っている。	食事は、毎食分パOUCH商品を利用しているが、食器や、盛付等を工夫して食べやすいものを提供している。利用者は、職員と一緒に準備や片付けに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ひとりひとりの食事量・水分量・摂取状況などを記録に残している。摂取状況や嚥下機能等を勘案し、食事形態の変更も検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に応じて口腔ケアをしていただいている。嚥下機能の低下が著しい利用者にはSTと相談し、食前の口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンを把握できるよう記録やチェックシートを使用している。排泄パターンに沿ってトイレ誘導したり、オムツ交換を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握して、随時トイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が利用者に及ぼす影響についてしっかりと理解し、食事や水分の摂取状況を確認と共に個々に応じた便秘対策を行っている。医師や看護師にも適宜相談し指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を行っているが、体調や希望に応じて柔軟に対応している。安全に快適に入浴を楽しんでもらえるよう室温の管理や、適切な介助を行うよう配慮している。	基本的に週2回の入浴としているが、一人ひとりの希望やタイミングに応じて、安全・快適に入浴を楽しんでもらえる支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせて午睡をして頂いている。生活リズムを整えられるよう支援している。またその日の体調や気分に合わせて個別対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をすぐに確認できるようファイリングし、状態の変化に応じて用法や副作用の確認を行っている。必要に応じて看護師や医師に相談している。服薬管理については必ずダブルチェックを行い、誤薬の無い様に十分に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や得意なこと、出来る事を把握し、役割や楽しみを提供し、生きがいにつながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外に出て日光浴を楽しんだり、ドライブに出掛け、景色の移り変わりを楽しんで頂いたり、おやつを食べたりし気分転換を図っている。コロナの感染状況をみながら工夫して外出や行事を企画していきたい。	人混みの少ない自然の中へドライブに出かけたり、近隣へ散歩や前庭での園芸を楽しんでいる。今後は、家族や地域住民と交流出来る企画の実施を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持や使用は控えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を希望に合わせて本人に取り次いでいる。携帯電話を所持している方は操作の援助などを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は整理整頓を心掛け、室温や環境の管理をし居心地の良い空間を提供できるよう配慮している。季節の飾りづくりを利用者と一緒に行い、季節感も取り入れられるよう工夫している。	二つのユニットは、中央ホールで自由に行き来できる。利用者はソファに腰かけて、日中活動を楽しんでいる。窓も大きく、開放的な雰囲気も保たれている。室内に展示されている作品には、季節を感じさせるものが多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファでくつろいだり、他者との会話を楽しんだり、好きな活動に集中したりと皆が自由に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使い慣れた家具や飾り物、写真等を自由に持ち込んで頂き、心地よく安心して過ごせるよう配慮している。安全面で必要があれば手すりやセンサーの設置も行っている。	各居室の入り口には、分かり易いネームプレートが掲げられ、利用者は使い慣れた物や写真、家具などを持ち込み使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体機能や認知レベルに合わせて手すり等の設置をしたり、必要な介助をしている。利用者の動線を考慮し危険な箇所が無いよう配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890500083		
法人名	医療法人 厚生会		
事業所名	グループホームさくら日和 わかば		
所在地	大野市中津川32-33		
自己評価作成日	令和5年10月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	令和 5年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲には大野の山々や田畑が広がり、季節の移り変わりを感じる事が出来ます。2ユニットの共有スペースには天窓から日光が差し込む明るくあたたかな空間があり、通気性も良く感染対策にも優れた造りになっています。同敷地内にあるデイサービスや訪問看護ステーションの訓練士や看護師との連携を図り、日々変化する利用者様の対応や生活上のアドバイスをいただいています。今後はコロナウイルスなどの感染症の状況をみながら、今まで制限されていた行事や外出等の企画を検討していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

さくらユニットと同様

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関に掲げ、それを実現するために職員一人一人が意識して業務にあたっている。月1回のミーティングの際には日々のケアを振り返り、利用者様の望む暮らしを提供できるよう、話し合い理解を深めている。	さくらユニットと同様	さくらユニットと同様
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方のご厚意で、畑でのジャガイモやサツマイモの収穫体験をさせていただいている。	さくらユニットと同様	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で現在は中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し意見交換・情報交換を行っている。コロナの感染状況をみて書面での報告とさせて頂くこともある。	さくらユニットと同様	さくらユニットと同様
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	普段から大野市健康長寿化との連絡を取りあい、分からない事を気軽に聞いたり相談をしている。	さくらユニットと同様	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルに沿って、職員研修を行っている。スピーチロックなど介護現場では意図なく起こりやすい拘束行為がある事を理解し、職員同士がお互いに注意しあえる関係づくりにも取り組んでいる。	さくらユニットと同様	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	法人内に虐待防止検討委員会を立ち上げ、年1回及び必要な都度会議を行っている。研修も定期的に参加し、職員同士がお互いに注意しあえる関係づくりにも注目している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在日常生活自立支援事業を利用されている方が1名入居しておられる。研修への参加も今後検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、理解・納得を得てから契約書にサインをいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の要望については、面会時や各種連絡時、コロナ禍においては電話にて直接話し合いを設け、確認をしている。運営推進会議の議事録を家族に郵送し、情報提供を行っている。	さくらユニットと同様	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議、朝・夕の申し送り、カンファレンスなどで意見交換を行い、運営に反映させている。	さくらユニットと同様	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を通して、自己評価・管理者評価を行い、個人面談にて意向を確認している。日々の業務中にも適宜意見や提案を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修目的シートを作り、各個人が自己管理している。院外研修への参加も促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での地域密着型施設会議を2カ月に1回行い、情報交換を行っている。市内の他事業所との連絡も取り合い、報告・相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際にはご本人・ご家族の要望をお聞きしている。入居後しばらくは不安感が強いことが心配される為、慎重に様子を伺う。自宅のようにリラックスできるよう、なじみの物を持参していただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族の思いをお聞きしている。また入居後のご本人の生活の様子をお伝えし、安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネが本人・家族に聞き取りし、アセスメントしたうえで、必要な支援を見極めてプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じて日常生活においてやりがいを持ってできる活動を探り、一緒に協力して掃除・洗濯・食事の準備などを行う。頼りになる存在であり、感謝していることを本人に伝え、意欲につながるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診介助は基本ご家族にお願いをしている。家族が受診に付き添えない場合は受診の結果をその都度電話にて報告している。その他状態変化時にもこまめに連絡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが5類感染症となったことから、面会や外出・外泊を再開し、増えてきている。遠方の家族や友人からの電話でのやり取りは継続して行っている。	さくらユニットと同様	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や行事・外出・手作業などそれぞれの興味に合わせて活動を選んでいただけるように企画している。活動を通して他者との関わりを楽しんでおられる。時折トラブルになる事もあるが、その都度職員が仲介に入っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の相談や問い合わせにも丁寧に対応している。次の施設や担当ケアマネとの連携も図っていくようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを聞き取る機会を生活の中で定期的に持ち、自分らしい生活を送って頂けるよう支援している。意思表示の出来ない方にはこれまでの生活歴や性格をご家族から聞き取ったり、表情などから思いをくみ取るように努めている。	さくらユニットと同様	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や前任のケアマネ・利用していたサービス事業所などから情報収集している。職員間で情報を共有し、統一した対応が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日のスケジュールに沿って声掛け・対応をしているが、本人のペースに合わせていけるように、本人と相談したり表情・言動を見ながら対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の希望や適宜アセスメントを行い、その時その時の本人の課題を見極め、介護計画を作成している。毎月のモニタリング・3カ月に1回の評価をもとにプランの見直しを行っている。	さくらユニットと同様	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケアプランに沿って記録に残している。各種会議・ミーティング・申し送り等を通してケアの見直しを行ったり、職員間で共有できるように各自が申し送りシートやノートの確認をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の意向をくみ取り、その都度ケアの見直しを行っている。職員間で相談し、斬新なアイデアも受け入れられるよう柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の介護タクシー事業者との提携を図り、利用者の定期受診や外出等を行っている。コロナの感染状況をみて地域のボランティアの慰問等も検討していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の日常の様子を文書にて情報提供し、家族が安心して受診助に付き添えるようにしている。家族が付き添えない場合は介護タクシーを利用していただいております。現在利用者の半数以上が介護タクシーを常時利用している。受診結果を毎回家族に報告している。	さくらユニットと同様	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内のデイサービスより、週2回2時間の訪問があり、日々の相談や処置、体操、レクなどもして頂いている。また、24時間対応可能な訪問看護師とも連携を持っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供シートを使用し、病院との連携を図っている。入院中も家族や病院との連絡を取り合い状況把握に努めている。退院時はカンファレンスに参加し必要な確認事項を職員全員が把握できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には当施設が出来る事と出来ないことを説明し、家族の方針をお聞きしている。重度化が著しい利用者には早い段階から今後の意向について家族と相談する機会を設けている。他施設移行を希望される方には、スムーズに意向が完了出来るよう支援を行っている。	さくらユニットと同様	さくらユニットと同様
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回の救急対応研修への参加を促し、マニュアルに沿って手順の確認を行っている。急変や事故発生時に備え、連絡先・搬送先の確認をしたり、普段からかかりつけ医との連携を持っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時BCPを作成した。今後職員全員がBCPの確認・把握を行い、マニュアルに沿って訓練を実施していく予定。その他に年2回消防署の指導のもと、避難訓練を行っている。	さくらユニットと同様	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性を尊重し、言葉かけには特に注意している。接遇研修に参加し、職員間で注意しあえる環境づくりにも配慮している。	さくらユニットと同様	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から思いや希望を気軽に話せるようにコミュニケーションをとり、信頼関係を築けるよう努めている。自己決定を促せるよう時間をかけてわかりやすく説明をしたり、同意を得るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースや心身の状態に合わせて、本人の望む生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	夜は寝間着に、朝は普段着に着替え、一日の中でメリハリをつけて過ごしていただいている。お気に入りの洋服を自分で選んだり、髪をセットしたりおしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食品業者から毎食分パックチル商品として購入している。食事の準備はパックのまま湯煎にて温め、食器に盛り付けて提供している。準備の際は利用者と一緒に料理に合った皿を選んだり、彩やバランスを考えて盛り付けている。洗い物や食器の片付けも一緒に行っている。	さくらユニットと同様	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ひとりひとりの食事量・水分量・摂取状況などを記録に残している。摂取状況や嚥下機能等を勘案し、食事形態の変更も検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に応じて口腔ケアをしていただいている。嚥下機能の低下が著しい利用者にはSTと相談し、食前の口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンを把握できるよう記録やチェックシートを使用している。排泄パターンに沿ってトイレ誘導したり、オムツ交換を行っている。	さくらユニットと同様	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が利用者に及ぼす影響についてしっかりと理解し、食事や水分の摂取状況を確認すると共に個々に応じた便秘対策を行っている。医師や看護師にも適宜相談し指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を行っているが、体調や希望に応じて柔軟に対応している。安全に快適に入浴を楽しんでいただけるよう室温の管理や、適切な介助を行うよう配慮している。	さくらユニットと同様	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせて午睡をして頂いている。生活リズムを整えられるよう支援している。またその日の体調や気分に合わせて個別対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をすぐに確認できるようファイリングし、状態の変化に応じて用法や副作用の確認を行っている。必要に応じて看護師や医師に相談している。服薬管理については必ずダブルチェックを行い、誤薬の無い様に十分に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や得意なこと、出来る事を把握し、役割や楽しみを提供し、生きがいにつながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外に出て日光浴を楽しんだり、ドライブに出掛け、景色の移り変わりを楽しんで頂いたり、おやつを食べたりし気分転換を図っている。コロナの感染状況をみながら工夫して外出や行事を企画していきたい。	さくらユニットと同様	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持や使用は控えて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を希望に合わせて本人に取り次いでいる。携帯電話を所持している方は操作の援助などを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は整理整頓を心掛け、室温や環境の管理をし居心地の良い空間を提供できるよう配慮している。季節の飾りづくりを利用者と一緒に行い、季節感も取り入れられるよう工夫している。	さくらユニットと同様	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファでくつろいだり、他者との会話を楽しんだり、好きな活動に集中したりと皆が自由に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使い慣れた家具や飾り物、写真等を自由に持ち込んで頂き、心地よく安心して過ごせるよう配慮している。安全面で必要があれば手すりやセンサーの設置も行っている。	さくらユニットと同様	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体機能や認知レベルに合わせて手すり等の設置をしたり、必要な介助をしている。利用者の動線を考慮し危険な箇所が無いよう配慮している。		